

News Release

2023年2月28日

この資料は BASF 本社(ドイツ)が 2023 年 2 月 24 日に発表した英語のプレスリリースを BASF ジャパンが日本語に翻訳・編集したものです。

BASF、厳しい市況でも力強さを発揮し、競争力強化のための施策を実施

- 売上高は 873 億ユーロ(前年比 11.1%増)
- 特別項目控除前営業利益は 69 億ユーロ(同 11.5%減)
- 営業活動によるキャッシュフローは 77 億ユーロ(同 6.4%増)、フリー・キャッシュフローは 33 億ユーロ(同 10.2%減)
- 2022 事業年度の配当金は 1 株当たり 3.40 ユーロを提案(2021 年は 1 株当たり 3.40 ユーロ)
- 欧州でのコスト削減とルートヴィヒスハーフェンのフェアブント構造最適化のための具体策を提示

2023 年の見通し:

- 売上高は 840 億ユーロ~870 億ユーロを見込む
- 特別項目控除前営業利益は 48 億ユーロ~54 億ユーロとなる見通し

BASF(本社:ドイツ ルートヴィヒスハーフェン)はこのほど、2022 年の業績を発表しました。BASF グループは、ウクライナ紛争の影響、とりわけ原材料やエネルギー価格の高騰に見舞われた 2022 年の厳しい市場状況でも力強さを示しました。BASF 取締役会会長 Dr.マーティン・ブルーダーミュラーは、最高財務責任者の Dr.ハンス - ウルリッヒ・エンゲルとともに 2022 年度の決算発表において説明を行いました。BASF の売上高は前年比 11.1%増の 873 億ユーロとなりました。売上高の伸びは、主に原材料やエネルギー

ギー価格の高騰により、ほぼすべての事業セグメントで価格が上昇したことによるものです。マテリアル事業セグメントおよびケミカル事業セグメントで最大の価格上昇がありました。また、BASF グループ全体では、販売量の大幅減が売上の伸びを鈍化させました。販売量の減少は主に、サーフェステクノロジー事業セグメントおよびケミカル事業セグメントの売上減に起因しています。

特別項目控除前営業利益(EBIT)は予想の範囲内ではあったものの、前年を 11.5%下回る 69 億ユーロでした。これは、ケミカル事業セグメントおよびマテリアル事業セグメントの利益貢献が大幅に減少したことによるものです。両事業セグメントともに、利益率と販売量が低下し、固定費は増加しました。

対照的に、他のすべての事業セグメントでは特別項目控除前営業利益が増加しました。アグロソリューション事業セグメントでは、販売量の増加と価格の上昇に支えられて売上が好調に推移したことを主因に、特別項目控除前営業利益が大幅増となりました。ニュートリション&ケア事業セグメントも、主に価格変動にともなう利益率の上昇により、大幅増益を達成しました。サーフェステクノロジー事業セグメントは、とりわけ自動車触媒や電池材料事業の利益貢献が高まったことから、大幅増益となりました。また、コーティングス事業本部の価格上昇と販売量の増加も、同事業セグメントの増益を支えました。インダストリアル・ソリューション事業セグメントでは、価格変動にともなう利益率の上昇で、特別項目控除前営業利益は微増となりました。「その他」に分類される事業の特別項目控除前営業利益はわずかに改善しました。

2022 年、BASF グループの事業利益は、世界で総額 32 億ユーロの追加エネルギーコストが発生したことによって圧迫されました。コスト増加の約 84%は欧州で発生し、主にルートヴィヒスハーフェンのフェアブント拠点が影響を受けました。天然ガス価格の上昇が、全体のエネルギーコスト上昇の 69%を占めました。

EBIT(営業利益)に含まれる特別項目は、前年のマイナス 91 百万ユーロに対し、2022 年にはマイナス 3 億 30 百万ユーロとなりました。2022 年の BASF グループの EBIT(営業利益)は、前年を大幅に下回る 65 億ユーロでした。この数字には、持分法適用会社からの利益が含まれています。持分法適法会社からの利益は 2 億 89 百万ユーロ減少し、3 億 86 百万ユーロとなりました。

保有する Wintershall Dea 株式会社に対する減損処理額が非常に高かったことが、BASF グループの株式保有による純利益にマイナスの影響を与えました。株式保有による純利益は、前年の 2 億 7 百万ユーロから、マイナス 49 億ユーロとなりました。この大幅な減少は主に、保有する Wintershall Dea 株式の、現金に影響を及ぼさない減損処理により、約 63 億ユーロの特別費用が発生したことによるものです。これはとりわけ、Wintershall Dea のロシア探鉱・生産活動の連結除外によるもので、それを受け、Wintershall Dea のロシア保有株式に対する再評価が行われました。Wintershall Dea の欧州ガス輸送事業については、保有するノルドストリームの株式およびノルドストリーム 2 プロジェクトへの資金提供に関する完全な減損を含め、さらなる評価損を計上しました。Wintershall Dea の 2022 年の事業利益貢献は、前年の 3 億 35 百万ユーロから、約 15 億ユーロに増加しました。

株式保有による純利益が大幅に減少した結果、BASF グループの純利益は、2021 年の 55 億ユーロに対し、マイナス 6 億 27 百万ユーロとなりました。

2022 年第 4 四半期の BASF グループの売上高と利益の推移

BASF グループの 2022 年第 4 四半期の売上高は、主に販売量の減少により、前年同期比 2.3%減の 193 億ユーロとなりました。同四半期の特別項目控除前営業利益は、前年同期比 69.6%減の 3 億 73 百万ユーロとなりました。

EBIT に含まれる特別項目は、前年同期のプラス 1 百万ユーロに対し、マイナス 2 億 54 百万ユーロでした。特別項目は主に、ルートヴィヒスハーフェンの工場に関する現金に影響を及ぼさない減損処理に関連するものです。2022 年第 4 四半期の EBIT は、90.3%減の 1 億 19 百万ユーロとなりました。純利益は、前年同期の 8 億 98 百万ユーロに対し、マイナス 48 億ユーロでした。この減少は、保有する Wintershall Dea の株式に対する減損処理によるものです。

2022 年通期および第 4 四半期の BASF グループのキャッシュフロー

2022 年の営業活動によるキャッシュフローは、前年の 72 億ユーロに対して 77 億ユーロでした。同年のフリー・キャッシュフローは、前年の 37 億ユーロに対し、33 億ユーロでした。

2022 年第 4 四半期の営業活動によるキャッシュフローは、前年同期比で 11 億ユーロ改善し、45 億ユーロとなりました。同四半期のフリー・キャッシュフローは、前年同期比 7 億 49 百万ユーロ増の 26 億ユーロでした。

1 株当たり 3.40 ユーロの配当を提案

BASF 取締役会および監査役会は年次株主総会において、前年度と同額の 1 株当たり 3.40 ユーロの配当を提案します。BASF の株式は、2022 年末の株価に基づくと約 7.3% という高い配当利回りを提供します。BASF はこれにより、株主の皆様にも総額 30 億ユーロをお支払いします。

BASF グループの 2023 年の見通し

ウクライナ情勢、欧州における原材料やエネルギー価格の高騰、物価や金利の上昇、インフレ、新型コロナウイルスの大流行など、2022 年を通じて生じた高い不確実性は、2023 年も継続するでしょう。これらの要因はすべて、全世界における需要にマイナスの影響を与えます。したがって、BASF は 2023 年の世界経済について、1.6%という緩やかな成長にとどまると予想しています(2022 年は 3.0%)。化学品生産に関しては、全世界で 2.0%の成長を見込んでいます(2022 年は 2.2%)。また、年平均ブレント原油価格は 1 バレル 90 ドル、平均為替レートは 1 ユーロ 1.05 ドルになると予想しています。

これらの想定に基づき、BASF グループの 2023 年の売上高は 840 億ユーロ～870 億ユーロになると見込んでいます。特別項目控除前営業利益は、48 億ユーロ～54 億ユーロに減少する見通しです。2023 年上半期は低調に推移する一方、下半期は中国を中心とした景気回復効果により利益環境が改善すると予想しています。

BASF、欧州でのコスト削減とルートヴィヒスハーフェンのフェアブント構造最適化のための施策を策定

Dr. マーティン・ブルーダーミュラーは今回、欧州を中心とした具体的なコスト削減策や、ルートヴィヒスハーフェンのフェアブント拠点における生産構造の最適化を発表し、次のように述べました。「欧州は、過度な規制、緩慢で官僚的な許認可プロセス、そしてとりわけ、大半の生産におけるコスト高により、ますます競争力が弱くなってきています。こうしたすべての要因により、他地域に比べ欧州市場において成長が鈍化し、エネルギー価格の高騰が、欧州における収益性と競争力にさらなる影響をもたらしています。」

2024 年末までに年間 5 億ユーロ超のコストを削減

2023～2024 年に実施されるコスト削減プログラムは、欧州、特にドイツにおける BASF のコスト構造を適正化し、変化する事業環境に適応することに重点を置いています。このプログラムの完了時には、非製造分野、すなわちサービス部門、事業部門、研究開発部門およびコーポレートセンターにおいて、年間 5 億ユーロ以上のコスト削減が見込まれています。コスト削減の約半分はルートヴィヒスハーフェン拠点で実現する予定です。

このプログラムには、サービスの集約化、部門管理構造の簡素化、ビジネスサービスの最適化、研究開発活動の効率化などの施策が含まれます。これらの施策により、全世界で約 2,600 のポジションに実質的な影響が生じると予想されますが、この数字には新たなポジションの創出も含まれます。

ルートヴィヒスハーフェンのフェアブント拠点最適化により、2026 年末までに年間 2 億ユーロ以上の固定費削減を実現する見込み

BASF は、コスト削減プログラムに加えて、ルートヴィヒスハーフェンの拠点が長期的に激化する競争に対応できるよう、構造改革も実施しています。ブルーダーミュラーは、次のように述べています。「158 年目を迎えたルートヴィヒスハーフェン拠点の未来を信じて、このような取り組みを行っています。私たちはここで働く人たちを信じ、欧州という地域を信じています。今後もこの拠点到注力し、勇気を持ってさらに発展させていきます。」

この数か月間、BASF はルートヴィヒスハーフェンのフェアブント構造を徹底的に分析しました。その結果、必要な対策を講じながら、収益性の高い事業を継続させる方法が示されました。ルートヴィヒスハーフェンにおける主な変更点の概要は以下の通りです。

- **カプロラクタム工場、2 つのアンモニア工場のうち 1 つおよび関連する肥料施設の閉鎖:** ベルギーのアントワープにある BASF のカプロラクタム工場は、今後の欧州における自社消費需要および市場の需要に対応できる生産能力を備えています。スタンダードアミンやスペシャリティアミン、Adblue®事業などの高付加価値製品は影響を受けず、ルートヴィヒスハーフェンの第 2 アンモニア工場を通じて引き続き供給されます。
- **アジピン酸の生産能力縮小、シクロヘキサノール、シクロヘキサノンおよび炭酸ナトリウムの生産工場の閉鎖:** フランスのシャランペにある Domo 社との合弁事業による

アジピン酸生産に変更はなく、変化する市場環境においても、欧州での事業継続に十分な生産能力を備えています。シクロヘキサノールおよびシクロヘキサノンアジピン酸の前駆体であり、炭酸ナトリウムの工場はアジピン酸製造時の副産物を使用しています。BASF は引き続き、ルートヴィヒスハーフェンにある、前駆体としてアジピン酸を必要とするポリアミド 6.6 の製造プラントを稼働させます。

- **TDI 工場、DNT および TDA 向け前駆体工場の閉鎖:** TDI の需要は、特に欧州、中東、アフリカにおいて非常に低調に推移し、予想を大幅に下回っています。ルートヴィヒスハーフェンの TDI コンプレックスは十分に活用されておらず、経済性の面でも期待に応えているとは言えません。エネルギーコストや光熱費の急激な上昇によって、状況はさらに悪化しています。BASF の欧州のお客様には、ルイジアナ州ガイスマー、韓国麗水、中国上海にそれぞれ工場を有する BASF のグローバル生産ネットワークから、引き続き TDI を安定的に供給します。

フェアブント構造の最適化により、同拠点の設備再調達価額の 10%、そして製造部門では約 700 のポジションが影響を受けることとなります。ブルーダーミュラーは、次のように述べています。「影響を受ける従業員の大半を、他の工場で雇用できると確信しています。特に、現状で欠員があり、今後数年のうちに多くの従業員が退職することから、幅広い経験を持つ社員を維持することは会社の利益にもなっています。」これらの施策は 2026 年末までに段階的に実施され、年間 2 億ユーロ以上の固定費削減を見込んでいます。

この構造改革により、ルートヴィヒスハーフェンの電力と天然ガスの需要も大幅に減少し、同拠点の CO₂ 排出量は年間約 0.9 百万トン削減されることとなります。これは、BASF の全世界における CO₂ 排出量の約 4%に相当します。

ブルーダーミュラーは、「私たちは、ルートヴィヒスハーフェンを欧州随一の低排出化学品生産拠点に発展させたいと考えています」と述べています。BASF はルートヴィヒスハーフェンの拠点において、再生可能エネルギーの供給量のさらなる確保を目指します。今後は、ヒートポンプやよりクリーンな蒸気の生成方法などを活用していきます。また、水電解による水素製造など、CO₂を排出しない新技術も導入する計画です。

■BASFについて

BASF(ビーイーエスエフ)は、ドイツ ルートヴィッヒスハーフェンに本社を置く総合化学会社です。持続可能な将来のために化学でいい関係をつくることを企業目的とし、環境保護と社会的責任の追及、経済的な成功の3つを同時に果たしています。また、全世界で110,000人以上の社員を有し、世界中のほぼすべての産業に関わるお客様に貢献できるよう努めています。ポートフォリオは、6つの事業セグメント(ケミカル、マテリアル、インダストリアル・ソリューション、サーフェステクノロジー、ニュートリション&ケア、アグロソリューション)から成ります。2022年のBASFの売上高は873億ユーロでした。BASF株式はFrankfurt証券取引所(BAS)に上場しているほか、米国預託証券(BASFY)として取引されています。BASFの詳細な情報は、<http://www.basf.com>をご覧ください。

■将来の予測に関する記述について

本リリースにはBASF経営陣による現時点での推測および予測、ならびに現在入手可能な情報に基づく「将来の予測に関する記述」が含まれています。これらはここに記す将来の進展や業績を保証するものではなく、多くの要因に依存し、様々なリスクと不確実性を含んでいるほか、正確とは限らない仮定に基づいています。本リリースに記載された将来の予測に関する記述に関しては、BASFは更新の義務を負いません。